伊能忠敬篇２

髭無村（ひげなしむら）で天体観測

伊能忠敬は、測量日記（測量記録）を残しています。この日記には、天候、作業の内容、宿泊地、訪問した名所旧跡、送迎・案内などを行ってくれた諸藩の役人・町村宿場役人の名前などが記されています。

宇陀が登場する行程を見てみましょう。文化５年（１８０８）１月 25 日、第６次伊能忠敬測量隊は、江戸を出発します。東海道を西へと進み、京都、大坂を経て、淡路島、四国各国を巡ります。

11 月 28 日には、河内から大和入りです。現在の斑鳩町、王寺町、葛城市、大和郡山市、奈良市、天理市、桜井市、明日香村、吉野町、大淀町、高取町、桜井市を巡っています。測量日記には、大和路を測りながら、有名な社寺にも参拝していることが記されています。

12 月 21 日には、長谷寺に参詣し、翌 22 日は、宇陀へと進み、髭無村の塗屋文蔵・三木屋清右衛門宅に泊まっています。その後、伊賀上野、松坂、伊勢を経て、江戸には、文化６年１月 18 日に戻り、四国や大和の測量調査を目的とした約１年間の長旅を終えています。

忠敬らが泊まった「髭無村」では、天文観測を行っています。北極星は、ほぼ真北にあってほとんど動かない二等星で、その高度は緯度（北緯）と同じであるため、象限儀（しょうげんぎ、天体の高度を測定する道具）を使って北極星の高度から観測地点の緯度を測定しています。昼には地面を測り、夜には天体観測を行って各地の緯度も測定し、当時は不明確であった緯度１度の距離をほぼ正確に求めています。

この「髭無村」は、どのあたりにあったのでしょうか。